

第1編 労働衛生の目的と体系

- 第1章 労働衛生の目的
- 第2章 労働衛生管理の体系
- 第3章 作業環境管理の考え方
- 第4章 労働安全衛生マネジメントシステムならびにリスクアセスメントおよびリスクマネジメントの必要性、社会的背景等
 - 1. 労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS)

第2編 作業環境における有害因子とその影響

- 第1章 有害な作業環境の種類
 - 1. 作業環境因子
 - 2. 有害物の取り扱いから健康障害発現に至る経路
 - 3. 管理濃度
- 第2章 ばく露の形態と健康障害の起こり方
- 第3章 有害物質の体内侵入の形態
 - 1. 呼吸器を介しての侵入
 - 2. 消化器を介しての侵入
 - 3. 皮膚を介しての侵入
 - 4. 有害物質の体内での挙動
- 第4章 体内での代謝と蓄積・排せつ等
 - 1. 標的臓器と物質代謝
 - 1.1 標的臓器
 - 1.2 蓄積・代謝・排せつ
 - 2. 量－影響，量－反応の関係
 - 2.1 量－影響（作用）関係
 - 2.2 量－反応関係
 - 2.3 量－影響関係と量－反応関係の関係
- 第5章 ばく露限界と生物学的限界
 - 1. ばく露限界
 - 1.1 TLVs
 - 1.2 許容濃度
 - 2. 生物学的モニタリングと BEIs
- 第6章 化学物質による健康障害
 - 1. 難溶性粉じんによる健康障害
 - 2. 可溶性の化学物質による健康障害

- 3. 変異原性試験と催奇形性試験
- 第7章 化学物質についてのリスクアセスメントおよびリスクマネジメント
- 1. 「連邦政府におけるリスクアセスメント：手順の管理」の発行
 - 2. 労働安全衛生法第65条第1項に規定する作業環境測定の意義
 - 3. OSHMS等をめぐる内外の動向を踏まえたわが国における化学物質管理対策の進展
 - 4. 「危険性又は有害性等の調査等に関する指針」および「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針」の重要性
- 第8章 物理的作業環境因子とその影響
- 1. 温熱
 - 2. 騒音
 - 3. 振動
 - 4. 気圧
 - 5. 電磁波
 - 6. 電離放射線

第3編 労働衛生管理の進め方

- 第1章 作業環境管理と作業管理および健康管理の関係
 - 1. 作業環境管理
 - 2. 作業管理
 - 3. 健康管理
 - 4. 作業環境管理の位置付け
- 第2章 作業環境管理の基本
 - 1. 有害物質の環境気中での挙動
 - 2. 有害物質の環境気中濃度の分布と変動
 - 3. 環境気中濃度と作業者の個人ばく露の関係
 - 4. 許容濃度と管理濃度
- 第3章 労働衛生における作業環境管理の役割と作業環境測定士の任務
 - 1. 作業環境管理とリスクマネジメントのPDCAサイクル

2. 作業環境管理と品質管理
3. 作業環境測定・評価の意義
4. 作業環境測定士の任務と責任

第4編 化学物質に対する作業環境管理の技術

第1章 有害物質の性状と発散のメカニズム

1. 有害物質の分類と性状
2. ガス
3. 蒸気
4. ミスト
5. 粉じん（ダスト）
6. ヒューム

第2章 化学物質に対する作業環境管理の基本

第3章 作業環境管理の工学的対策

1. 有害物質発散の抑制
2. 有害物質の飛散と拡散の抑制
3. 有害物質の希釈と除去による濃度の低減
4. 施設設備のメンテナンス

第4章 作業環境測定と評価の方法

1. 作業環境測定のデザイン
2. 測定結果の評価の考え方
3. 管理区分に応じて講ずべき措置
4. 継続的な作業環境管理の重要性

第5章 作業環境測定とリスクアセスメント

1. 化学物質リスクアセスメント指針

2. 作業環境測定結果とリスク評価
3. 作業環境測定が義務づけられていない物質のリスク評価
4. 定性的リスク評価
5. リスク低減措置の検討および実施

第5編 労働衛生保護具の使用による個人防護

第1章 個人防護の基本的考え方

1. 個人防護の重要性と保護具の限界
2. 労働衛生保護具の選び方
3. 労働衛生保護具の種類

第2章 呼吸用保護具

1. 呼吸用保護具の種類
2. 防じんマスク
3. 電動ファン付き呼吸用保護具
4. 防毒マスク
5. 送気マスク
6. 自給式呼吸用保護具

第3章 その他の保護具

1. 皮膚の保護具
2. 眼と顔面の保護具
3. 防熱面，防熱衣
4. 防音保護具

さくいん